

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月7日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 テクノ・セブン
 コード番号 6852 URL <http://www.techno7.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田谷 博久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 東 由久

TEL 03-3245-1431

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	1,702	△3.5	142	—	137	—	177	—
22年3月期第3四半期	1,764	△33.5	△37	—	△26	—	△17	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	12.99	—
22年3月期第3四半期	△1.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	3,386	1,187	30.9	76.70
22年3月期	3,405	968	25.4	62.90

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 1,046百万円 22年3月期 865百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,600	8.1	180	—	150	—	160	—	11.62

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、 除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 13,772,400株 22年3月期 13,772,400株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 126,395株 22年3月期 16,147株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 13,657,093株 22年3月期3Q 13,756,380株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、当初、アジア地域の堅調な需要や新興国の経済成長により景気が持ち直す兆しがありました。しかし、米国の景気低迷長期化に伴う金融緩和政策はドル安円高を進行させ、国内において企業収益への先行き不透明感を高め、厳しい雇用情勢やデフレ状況も続いています。また、政治的にも国会のねじれ状態により、有効な政策が打ち出されず、景気の自律的な回復には至っていません。一方、新興国の需要を取り込んだ一部企業では、収益の改善も見え始めました。

このような状況下で当社グループは、不採算事業であった温度計測事業から撤退し、事務機器事業・ソフトウェア関連事業・不動産事業の3事業を柱に事業の効率化、利益体質への改善を進めながら事業の拡大に努めてまいりました。

事務機器事業につきましては、営業拠点の統廃合、販売体制の見直等により販売効率・販売力強化を進めてまいりましたが、代理店ルートの販売低迷、設備投資需要の低迷によるシステム案件受注の伸び悩み等により事務機器事業の連結売上高は、692百万円（前年同期比15.3%減）となりました。

ソフトウェア関連事業につきましては、当社グループ各社とのシナジー効果による事業拡大を図るため、ネットワーク等のインフラ構築に強みを持つウインテック株式会社を子会社化し、事業の強化を図りました。また、システム開発や技術支援に係る契約の中途解約や更新中止などが続いた状況も落ち着きを取り戻し、ソフトウェア関連事業の連結売上高は、715百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

不動産事業につきましては、所有賃貸不動産が高水準の稼働を保ったことにより、安定した収入を獲得することができました。不動産事業の連結売上高は、101百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

温度計測事業につきましては、事業撤退に伴い受注残が解消され、温度計測事業の連結売上高は、192百万円（前年同期比24.6%減）となりました。

こうした結果、当社グループ全体の業績といたしましては、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、1,702百万円（前年同期比3.5%減）となりました。また、利益面につきましては、ソフトウェア技術者の稼働状況が回復したこと、固定費削減の効果が出たこと等により、連結営業利益は142百万円（前年同期比179百万円増）、連結経常利益は137百万円（前年同期比164百万円増）となり、連結四半期純利益は、温度計測事業の事業譲渡に伴う譲渡益を86百万円計上したこと等により177百万円（前年同期比195百万円増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ0.5%減少し3,386百万円となりました。

流動資産については、前連結会計年度末に比べ2.8%減少し915百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金、棚卸資産の減少等及び現金及び預金の増加によるものです。

固定資産については、前連結会計年度末に比べ0.3%増加し2,471百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少及び投資有価証券の増加等によるものです。

流動負債については、前連結会計年度末に比べ16.6%減少し525百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少等によるものです。

固定負債については、前連結会計年度末に比べ7.4%減少し1,672百万円となりました。これは主に、長期未払金の減少等によるものです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ22.7%増加し1,187百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の業績予想につきましては、平成22年10月28日公表の通期の業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価の切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価の切下げを行う方法によっております。

③法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算出方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

1. 会計処理基準に関する事項の変更

①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しています。これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

②企業結合に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

③棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成20年9月26日）を適用し、貯蔵品の評価方法を最終仕入原価法から総平均法に変更しております。

なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

2. 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用に伴い、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しています。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	421,758	288,942
受取手形及び売掛金	369,393	455,384
商品及び製品	63,864	89,941
仕掛品	4,647	5,670
原材料及び貯蔵品	19,319	53,279
繰延税金資産	11,565	7,418
その他	30,626	49,986
貸倒引当金	△6,114	△9,382
流動資産合計	915,059	941,239
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,205,873	1,205,439
減価償却累計額	△348,839	△313,867
建物及び構築物(純額)	857,033	891,572
機械装置及び運搬具	78,058	87,431
減価償却累計額	△76,593	△85,382
機械装置及び運搬具(純額)	1,464	2,048
工具、器具及び備品	263,894	264,393
減価償却累計額	△256,633	△254,332
工具、器具及び備品(純額)	7,260	10,060
土地	1,396,494	1,396,494
リース資産	4,241	4,241
減価償却累計額	△1,855	△1,060
リース資産(純額)	2,385	3,180
有形固定資産合計	2,264,639	2,303,357
無形固定資産		
のれん	3,738	3,001
その他	34,551	34,242
無形固定資産合計	38,290	37,244
投資その他の資産		
投資有価証券	119,313	69,616
長期貸付金	54,797	54,797
その他	81,917	86,521
貸倒引当金	△87,610	△87,652
投資その他の資産合計	168,418	123,282
固定資産合計	2,471,348	2,463,884
資産合計	3,386,407	3,405,124

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	192,872	260,630
短期借入金	194,372	222,412
1年内償還予定の社債	20,000	42,000
リース債務	1,113	1,113
未払法人税等	32,089	8,586
賞与引当金	22,608	32,967
その他	62,644	62,733
流動負債合計	525,701	630,443
固定負債		
社債	80,000	—
長期借入金	1,437,175	1,543,484
リース債務	1,484	2,319
繰延税金負債	65,672	62,786
退職給付引当金	52,270	83,289
役員退職慰労引当金	772	2,657
長期未払金	5,899	82,009
その他	29,554	29,904
固定負債合計	1,672,828	1,806,451
負債合計	2,198,529	2,436,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	1,141,620
資本剰余金	583,231	846,176
利益剰余金	357,489	△1,124,439
自己株式	△8,690	△2,293
株主資本合計	1,032,030	861,063
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,666	4,178
評価・換算差額等合計	14,666	4,178
少数株主持分	141,180	102,987
純資産合計	1,187,877	968,229
負債純資産合計	3,386,407	3,405,124

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,764,450	1,702,357
売上原価	1,349,477	1,226,276
売上総利益	414,972	476,080
販売費及び一般管理費	452,189	333,303
営業利益又は営業損失(△)	△37,217	142,776
営業外収益		
受取利息及び配当金	935	1,016
業務受託料	17,194	17,811
助成金収入	18,279	4,299
その他	3,360	2,777
営業外収益合計	39,768	25,905
営業外費用		
支払利息	26,553	25,240
その他	2,530	5,679
営業外費用合計	29,084	30,919
経常利益又は経常損失(△)	△26,532	137,762
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4,686	4,242
賞与引当金戻入額	23,313	30,318
投資有価証券売却益	45	56
事業譲渡益	—	86,808
特別利益合計	28,045	121,424
特別損失		
投資有価証券評価損	12,048	782
投資有価証券売却損	—	1,490
事務所移転費用	—	4,986
特別損失合計	12,048	7,258
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△10,536	251,928
法人税、住民税及び事業税	7,627	34,448
法人税等調整額	3,178	5,283
法人税等合計	10,806	39,732
少数株主損益調整前四半期純利益	—	212,196
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△3,383	34,831
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△17,958	177,364

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	580,454	541,128
売上原価	415,927	384,132
売上総利益	164,527	156,995
販売費及び一般管理費	152,506	79,149
営業利益	12,021	77,846
営業外収益		
受取利息及び配当金	273	283
業務受託料	4,577	5,263
助成金収入	3,747	1,742
その他	123	610
営業外収益合計	8,719	7,899
営業外費用		
支払利息	8,672	7,524
その他	690	907
営業外費用合計	9,362	8,431
経常利益	11,378	77,314
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	646
特別利益合計	—	646
特別損失		
投資有価証券評価損	12,048	—
特別損失合計	12,048	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△670	77,960
法人税、住民税及び事業税	1,962	15,121
法人税等調整額	△750	2,666
法人税等合計	1,211	17,787
少数株主損益調整前四半期純利益	—	60,173
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△556	4,683
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,326	55,489

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△10,536	251,928
減価償却費	56,242	50,745
のれん償却額	750	1,012
退職給付引当金の増減額(△は減少)	15,657	△31,019
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	617	△1,885
賞与引当金の増減額(△は減少)	△35,186	△25,202
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△465	△3,601
受取利息及び受取配当金	△935	△1,016
支払利息	26,553	25,240
為替差損益(△は益)	18	27
投資有価証券売却損益(△は益)	△45	1,434
投資有価証券評価損益(△は益)	12,048	782
事業譲渡損益(△は益)	—	△86,808
売上債権の増減額(△は増加)	188,324	135,680
たな卸資産の増減額(△は増加)	45,839	17,868
仕入債務の増減額(△は減少)	△92,252	△69,693
長期未払金の増減額(△は減少)	—	△76,109
その他	△34,090	△4,717
小計	172,542	184,663
利息及び配当金の受取額	935	1,016
利息の支払額	△26,803	△25,529
法人税等の支払額	△17,422	△13,048
営業活動によるキャッシュ・フロー	129,251	147,102
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1,954	△3,273
投資有価証券の売却による収入	205	1,564
有形固定資産の取得による支出	△17,377	△3,221
無形固定資産の取得による支出	△7,639	△8,152
貸付金の回収による収入	100	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△19,458
敷金及び保証金の回収による収入	—	30,641
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△29,198
事業譲渡による収入	—	130,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,666	98,902

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△4,998	—
長期借入れによる収入	150,000	330,000
長期借入金の返済による支出	△144,647	△500,349
社債の発行による収入	—	100,000
社債の償還による支出	△62,000	△42,000
リース債務の返済による支出	△742	△795
自己株式の取得による支出	△19	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	△62,406	△113,161
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	△27
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	40,160	132,816
現金及び現金同等物の期首残高	249,050	288,942
現金及び現金同等物の四半期末残高	289,211	421,758

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

<資本金及び資本準備金の額の減少>

当社は第2四半期連結会計期間において、以下のとおり欠損填補ための減資を行いました。

資本金の額を1,041,620千円減少して100,000千円とし、資本準備金の額を821,176千円減少して25,000千円としました。

減少した資本金及び資本準備金はその他資本剰余金に振替え、そのうち1,304,564千円を欠損填補のため利益剰余金に振替えました。その結果、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金は583,231千円となっております。

<利益準備金の額の減少>

当社は第2四半期連結会計期間において、利益準備金81,438千円を全額繰越利益剰余金に振替えました。

なお、株主資本の合計金額には、著しい変動はありません。